

## 「九州環境ユースミーティング in ASO」

【主催】 国立阿蘇青少年交流の家

【後援】 九州各県・政令指定都市教育委員会，NPO法人九州流域連携会議

【期間】 平成24年11月23日(金)～11月25日(日) 2泊3日

【実施場所】 国立阿蘇青少年交流の家 南阿蘇（天然水の森） 大観の森 沓掛の水田

【参加者】 47名（高校生37名・引率教員9名・大学生1名）

内訳：照曜館中学校・東筑紫学園高等学校（福岡）

唐津青翔高等学校（佐賀）

唐津南高等学校（佐賀）

中津南高等学校耶馬溪校（大分）

宮崎大宮高等学校（宮崎）

加治木工業高等学校（鹿児島）

芦北高等学校（熊本）

阿蘇中央高等学校（熊本）

長崎大学（長崎）

【講師】 NPO法人舩ワークス

代表 岡 裕二 氏

国土交通省 九州地方整備局

熊本河川国道事務所

調査一課 中元 道男 氏

サントリーホールディングス株式会社

エコ戦略本部 エコ戦略部 水源涵養グループ

課長代理 三枝 直樹 氏

公団財団法人 肥後の水とみどりの愛護基金

事務局長 津下 芳夫 氏

主任研究員 小島 徹 氏

灰瀬 裕一 氏

### 1 趣 旨

九州地区で環境保全活動等に取り組んでいる高校生や大学生等を対象に，環境教育・環境保全活動の推進を図ることを目的とする。

### 2 目 標

- (1) 環境保全に取り組む高校生同士が実践発表をとおして，お互いに学びあう出会いの雰囲気になるようにし，環境教育等に関心を持たせる。
- (2) 国土交通省の講話を聞くことで，災害時に自分がどんな対応ができるのかを考える場を提供する。
- (3) 企業の社会貢献活動への取組を聞くことで，自然の恵みについて知り，普段自分の地域でどんなことができるのかを考える場を提供する。

### 3 事業展開

#### (1) 研修プログラム

|               |        |      |      |         |                                         |       |       |                  |       |                                  |       |       |           |       |                                 |                                   |       |       |
|---------------|--------|------|------|---------|-----------------------------------------|-------|-------|------------------|-------|----------------------------------|-------|-------|-----------|-------|---------------------------------|-----------------------------------|-------|-------|
| 11月23日<br>(金) | 7:00   | 8:00 | 9:00 | 10:00   | 11:00                                   | 12:00 | 13:00 | 14:00            | 15:00 | 16:00                            | 17:00 | 18:00 | 19:00     | 20:00 | 21:00                           | 22:00                             | 23:00 |       |
|               |        |      |      |         |                                         |       |       | 受付               | 開会式   | 実践発表会                            |       |       | オリエンテーション | 夕食・入浴 |                                 | 講話<br>講話をうけての話し合い活動<br>森の美術館作りの準備 |       | 就寝準備等 |
| 11月24日<br>(土) | 7:00   | 8:00 | 9:00 | 10:00   | 11:00                                   | 12:00 | 13:00 | 14:00            | 15:00 | 16:00                            | 17:00 | 18:00 | 19:00     | 20:00 | 21:00                           | 22:00                             | 23:00 |       |
|               | 起床・洗面等 | 朝の集い | 朝食   | 準備・掃除   | 企業の取り組み①<br>水源涵養活動<br>サントリー<br>「水育について」 |       | 昼食    | 天然水の森<br>(森の美術館) |       | CsR 企業の取り組み②<br>肥後銀行<br>「植林について」 |       | 夕べの集い | 夕食・入浴     |       | フィールドワーク<br>まとめ<br>(自分たちができること) |                                   | 就寝準備等 | 消灯    |
| 11月25日<br>(日) | 7:00   | 8:00 | 9:00 | 10:00   | 11:00                                   | 12:00 | 13:00 | 14:00            | 15:00 | 16:00                            | 17:00 | 18:00 | 19:00     | 20:00 | 21:00                           | 22:00                             | 23:00 |       |
|               | 起床・洗面等 | 朝の集い | 朝食   | 準備・部屋点検 | フィールドワークの<br>まとめの発表                     |       | 閉会式   |                  |       |                                  |       |       |           |       |                                 |                                   |       |       |

#### (2) 目標達成のための工夫

- ① お互いに学び合うことのできる出会いの雰囲気づくり  
 今回は、実践発表会の途中に、意見・感想の場を設けた。司会進行を長崎大学のボランティアの方に依頼し、若い世代同士が活発な意見が出るように工夫した。  
 また夜には、レクリエーションを取り入れ、違う高等学校同士の生徒の仲間づくりを行うようにした。



#### (各高等学校の活動報告)

|      |                                                                                                      |     |                           |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|---------------------------|
| 県名   | 佐賀県                                                                                                  | 学校名 | 佐賀県立唐津青翔高等学校              |
| タイトル | 緑藻アオサ類の成長と海の環境 Part ③                                                                                |     |                           |
| 県名   | 宮崎県                                                                                                  | 学校名 | 宮崎県立宮崎大宮高等学校              |
| タイトル | 再生可能エネルギー普及を宮崎・九州から全国へ進めるには・・・                                                                       |     |                           |
| 県名   | 大分県                                                                                                  | 学校名 | 大分県立中津南高等学校耶馬溪校 科学部       |
| タイトル | 耶馬溪町のホタルを守ろう～「ホタル授業を通しての環境保全の取り組み」～                                                                  |     |                           |
| 県名   | 熊本県                                                                                                  | 学校名 | 熊本県立芦北高等学校林業科・森林レクリエーション班 |
| タイトル | 「地域にひらかれた森林空間の創造」～森を歩こう！いやし効果を求めた自然観察道づくりとその利用について                                                   |     |                           |
| 県名   | 鹿児島県                                                                                                 | 学校名 | 鹿児島県立加治木工業高校              |
| タイトル | 『ものづくりを通してエネルギー環境を考える』—高付加価値リサイクルを目指して—                                                              |     |                           |
| 県名   | 熊本県                                                                                                  | 学校名 | 熊本県立阿蘇中央高等学校 阿蘇清峰校舎       |
| タイトル | 野焼き・草原再生プロジェクト活動                                                                                     |     |                           |
| 県名   | 佐賀県                                                                                                  | 学校名 | 佐賀県立唐津南高等学校 松露プロジェクトチーム   |
| タイトル | 『虹の松原』の未来を考える ～松原の有効利用を通して松原の保全を考える～                                                                 |     |                           |
| 県名   | 福岡県                                                                                                  | 学校名 | 福岡私立東筑紫学園高等学校 理科部         |
| タイトル | 再生チョークを作ってみよう！ 北九州1/55等光度曲線地図の完成 夜空の明るさと黄砂<br>東筑紫学園高等学校 理科部 広谷保全プロジェクト 北九州平尾台カルスト 広谷湿原について 1994～2012 |     |                           |

## ② 専門家の講師の方々による指導

今回は、目標のひとつである災害時に自分がどんな対応ができるのかを考える場を提供する契機として、国土交通省九州地方整備局熊本河川国道事務所調査一課 中元道男氏を招いて、九州の災害の様子また本年度7月12日にあった阿蘇の水害の話などの様子を伝えていただくことにした。阿蘇の水害が広流域にまで影響をおよぼしていたことを話していただくことで、水害の規模の大きさを感じてもらうとともに、高校生の自分たちで何ができるのかを考えさせるようにした。

またこの話し合いの後には、NPO法人舩ワークス代表岡裕二氏にコーディネーター役として参加していただき、質の高いものになるように仕組んだ。



中元氏による講話

## ③ 地域の特徴を生かしている企業の取組（社会貢献活動）を知る場の設定

今回は、高校生があまりなじみのない企業の取組に目を向けることにした。阿蘇には、南阿蘇村で社会貢献活動に取り組んでいるサントリー、また阿蘇市の大観の森や沓掛の水田で同じく社会貢献活動を行っている肥後銀行から講師をお招きして、活動内容また現地の様子を実際に知るフィールドワーク活動を仕組んだ。

阿蘇の自然の良さを高校生に十分に味わわせることで、自分の地域を振り返って、自然を守るために普段どんなことができるのかをより身近な問題として考えさせるように工夫した。

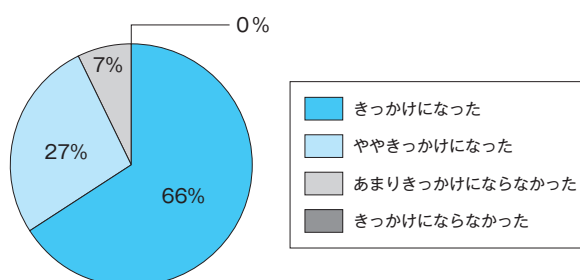


大観の森でのフィールドワーク

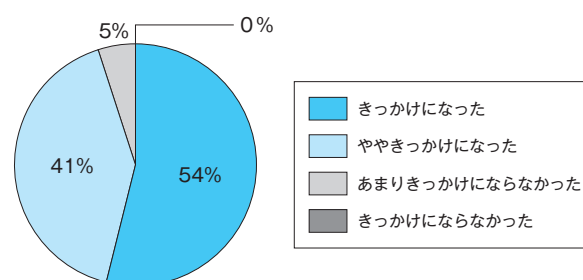
# 4 結果

アンケートの結果は次のとおりである。（参加者による自己評価）

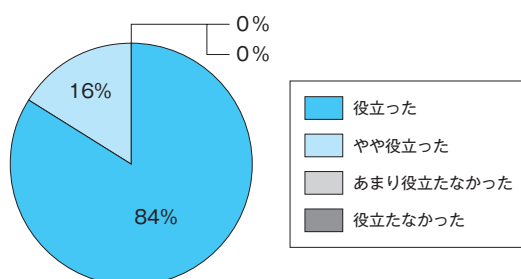
各学校の実践発表や意見交換は、自分たちの活動を見つめなおすというきっかけとなったか。



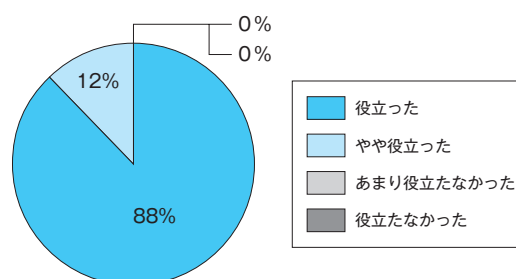
各学校の実践発表や意見交換は、新たな取組へのきっかけとなったか。



講話は、今後の環境教育の取組について役立ったか。



フィールドワークは、今後の環境教育の取組について役立ったか。



### 【参加者の声】

- 色々な学校の人と環境のことについて、話し合いができてよかった。
- 森のことや水などの環境について、今までより深く理解することができた。
- 自然と向き合う契機になったし、新しい発見もあり良い経験になった。
- 普段学べないようなことができて、この事業はできれば続けてほしい。

## 5 成果と課題

### (1) 成果

- ① 参加者から、「農業高校の限られた発表会ではなく、工業系、普通科での取り組みを知ることができてよかった。」「高校生の活気あふれる言動を目のあたりにして、元気と今後のやる気をもらった。」といった意見がみられた。新たな取組のきっかけになる貴重な場であった。



- ② 参加者から、「地元にいながら、初めて知ることも多かった。」「環境は一部の取り組みではなく、あらゆる場所であらゆる機会に行わねばならないという再認識ができた。」「これからの松露プロジェクトのために参考になった。」といった意見がみられた。講話をとおして、今後の環境教育の取組について役に立つ内容であった。



- ③ 現地活動（フィールドワーク）では、「真近で山や森を見れてよかった。」「高校生であっても実体験から受ける影響が大きい。」といった意見がみられた。

また「この活動をうけて、自然の大切さを忘れずに、自分たちでできることをしっかり考えたい。」という前向きな感想もあった。このようなところからも、今後の環境教育について考える場となった。



- ④ 事業全体をとおして、「環境について再認識ができた。」「水がきれいなことは、森がしっかりしていることだとわかった。」「森の事や水などの環境について、

今までより深く理解することができた。」といった意見がみられた。

このようなことから、環境教育・環境保全活動の推進を図る事業であったといえる。

## (2) 課 題

- ① 企業の社会貢献について、初めて聞く生徒・引率者の方もみられたので、より丁寧な事前説明を行うと、社会貢献活動への理解力が一層高まったと考えられる。
- ② 社会貢献活動のフィールドワークは、ひとつの企業に絞って参加者に余裕のある充実したプログラムにした方がよかった。